

浜の活力再生プラン  
令和5～9年度  
(第2期)

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	美波町地域水産業再生委員会
代表者名	豊崎 辰輝 (日和佐町漁業協同組合 代表理事組合長)

再生委員会の構成員	伊座利漁業協同組合、阿部漁業協同組合、由岐漁業協同組合、木岐漁業協同組合、日和佐町漁業協同組合、美波町
オブザーバー	徳島県南部総合県民局

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<p>美波町木岐地域 (木岐漁業協同組合の管内)</p> <p>木岐漁協組合員数 32名 (正:27名、准:5名) ※准5名のうち3名は加工業者 (令和3年12月末現在)</p> <p>※以下、着業漁業種類の内訳を示す。( )内は着業経営体数を示すが、1経営体で複数の漁業種類を兼業するため、合計値は組合員数と合致しない。</p> <p>漁業種類 (令和3年12月末現在)</p> <p>一本釣漁業 : 2名 (2経営体) はえ縄漁業 : 3名 (1経営体) 磯建網漁業 : 23名 (15経営体) 小型定置網漁業 : 11名 (4経営体) 採貝採藻漁業 : 17名 (14経営体)</p>
-------------------	---

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

美波町は徳島県の南東部に位置し、平成18年3月31日、日和佐町と由岐町が合併して誕生した。日和佐町と由岐町は「上灘」と呼ばれ、南東は太平洋に望み、暖かい黒潮の良好な漁場を有している。

本プランの対象となる木岐漁協は旧由岐町に位置している。旧由岐町は、海岸線に細長く面して平坦地は少なく、ほとんどが山地であることから、古くから漁業が産業及び地域経済の中心であった。木岐漁協の管内では、採貝採藻や磯建網 (イセエビ刺網) 等の磯根資源を利用する漁業が基幹となっており、これに定置網漁業 (乗組員としての就業も含む) を組み

合わせる兼業形態が多い。また、一本釣漁業、はえ縄漁業への着業者もいるが、近年減少傾向にある。

木岐漁協管内における近年の生産量は 60～70 トン程度で年変動があり、金額は第 1 期浜プラン期間中 60 百万円から 45 百万円と右肩下がりであった（図 1）。かつて平成年代初頭は 3～4 億円の生産金額があったが、その後急激に減少し、現在の水準まで落ち込んでいる。主な原因は、資源の減少もさることながら、就業者の減少や高齢化の進行による出漁日数の減少等が影響している。

水揚量の減少に伴って漁協の販売事業も変化した。かつては西由岐に立地する共同荷捌き施設を使用してセリや入札で販売していたが、現在は特定の買受業者と相対で販売する形態となっている。漁協の職員数も 1 名（令和 2 年 12 月末現在）となり、現在の規模の経済事業を運営できる最小限度の体制で、魚価の維持・向上の取組にも限界があり、結果として生産金額の減少につながっている。

これらに加え、原油価格の変動を背景とした燃油価格・漁業用資材価格の大幅な変動は、生産の変動とともに漁業経営の不安定性を助長する要因となっている。このことが新規参入者の減少につながり、漁業者の減少や高齢化の進行、さらには既存漁業者の生産意欲の低下にもつながっている。組合員数の減少も拍車がかかっており、近い将来には法定組合員数を割り込む水準まで減少することが懸念される状況となっている。

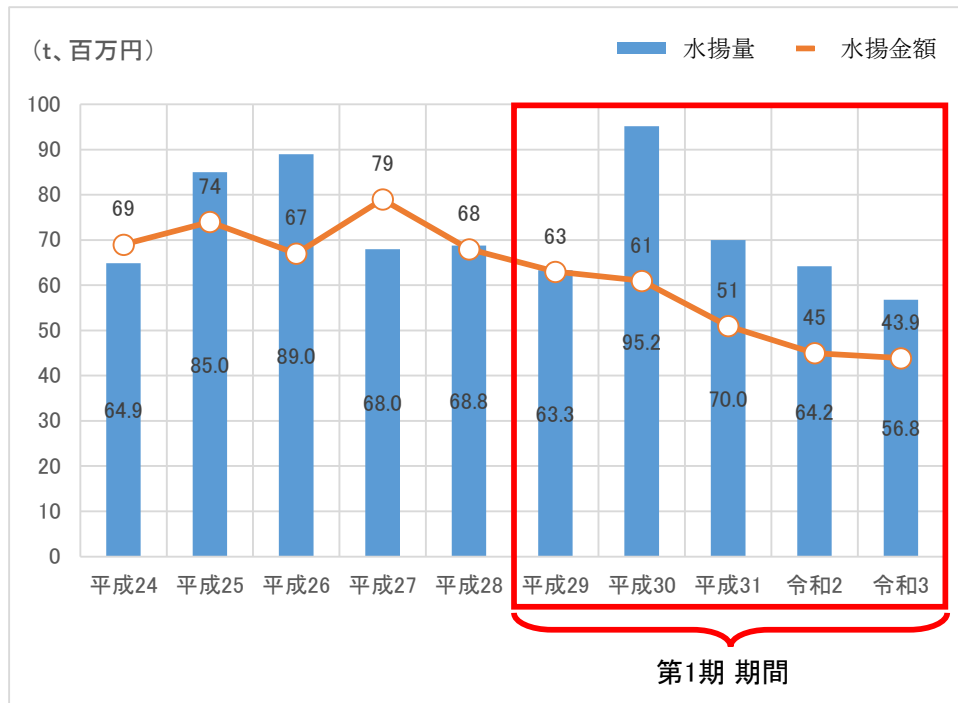


図 1 木岐漁協における水揚高の推移

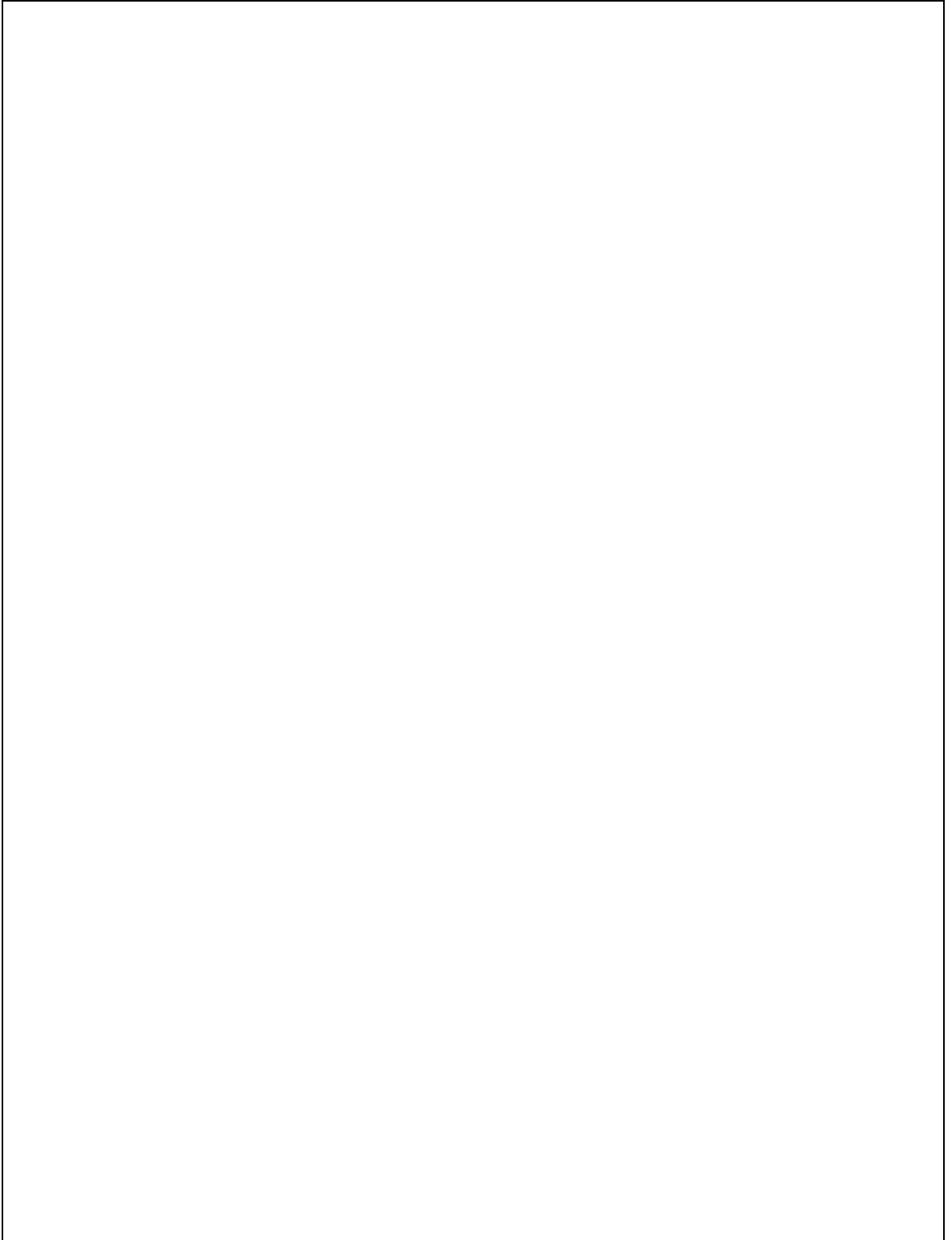
資料：美波町由岐支所

(2) その他の関連する現状等

- 木岐漁協を含む、美波町内 5 漁協で構成される「海部上灘漁業振興会」では、アワビ稚貝やヒラメ等の種苗放流事業を実施している。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等



## (2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

美波町・木岐地域では、漁業者の減少が続き、漁協の組織運営体制も最小規模となっている。現状において、単協のみで経済事業体制を強化できる状況にはないことから、海部郡広域浜プランとの整合を図り、海部郡における関係漁協との連携の下で、経済事業の維持を図ることを第一の柱とする。

また、漁業者にあっては、地先磯根資源による安定的な収入をベースに、小型定置網漁業を中心とする沿岸漁船漁業の組み合わせで腰の強い漁業経営の実現を目指すことを第二の柱とする。

さらに、上記の取組を徹底するためにも、その担い手たる漁業者の確保を推進するとともに、将来的な組織再編に対する組合員の理解の浸透を図っていくことが必要である。木岐漁協は、新規漁業就業者の積極的な受け入れを進めるとともに、漁協の組織再編への理解浸透を進めることを第三の柱とする。

以上に示した3つの柱に加え、第1期浜プランから取り組んできた減速航行や船底洗浄の徹底を推進することで漁業経費の削減を図り、第2期浜プラン終了時点での漁業所得10%増大を目指す。

### 1. 地先磯根資源の回復・増大と資源管理の徹底

木岐地域では、隣接する日和佐町漁協との共有漁場での資源管理の取組から、イセエビ漁業では成果を上げ、現在では基幹漁業となっている。一方で、漁場環境の変化や磯根資源（特にアワビ）の減少が大きな課題となっていることから、漁場環境保全や資源回復活動のさらなる推進を図っていく。

#### 1-1 磯根資源を育む漁場環境の保全の継続

#### 1-2 アワビ種苗放流の拡大と資源管理の徹底

#### 1-3 イセエビ資源管理の継続

#### 1-4 漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会の定期開催

### 2. 合理的な共同出荷体制の構築と高品質な水産物の供給

木岐地域では、産地仲買業者頼みの販売となってきたことから、海部郡広域浜プランとの整合を図り、関係漁協とも連携した販売事業の再構築を行って流通コストの低減や価格向上を図る。販売事業の再構築にあたっては、新たな技術を活用した効率的な活魚出荷方法の導入も推進する。

また、海部郡の9漁協による「とくしま海部水産物品質確立協議会」を核として取り組まれている活締めによる高品質化の取組みを継続、発展させ、付加価値の向上を図る。

#### 2-1 周辺漁協との連携による販売事業の再構築

#### 2-2 新たな活魚出荷方法の導入

#### 2-3 イセエビの需要拡大

#### 2-4 高品質な水産物の供給

**3. 漁業後継者・担い手確保に資する取り組み**

漁業の担い手の確保にあたっては、「とくしま漁業アカデミー」との連携の下、地域での水揚状況を踏まえながら I・J・U ターン者等も含め、幅広く漁業への新規参入者の受入を推進する。

**3-1 地域内外からの新規漁業着業の促進**

**4. 漁業経費の削減に資する取り組み**

漁船漁業の主要な経費である燃油の削減を図ることで漁業コストの削減を図るとともに、漁協経済事業の合理化を進め、賦課金負担等の軽減を図る。

**4-1 減速航行と船底・プロペラの徹底洗浄による省燃油対策**

**4-2 漁業経営セーフティネット構築事業への加入促進**

(3) 資源管理に係る取組

漁業調整規則等の公的管理の順守を徹底するとともに、漁業者による自主的な資源管理を推進する。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1 年目（令和 5 年度）所得向上（基準年比）7.5%

漁業収入向上のための取組	<p><b>1. 地先磯根資源の増大と資源管理の徹底</b></p> <p><b>1-1 磯根資源を育む漁場環境の保全の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協とすべての漁業者は、県・町との連携のもとで、これまで実施してきた有害生物（ウニ類）駆除等の漁場環境保全の取組みを継続する。</li></ul> <p><b>1-2 アワビ種苗放流の拡大と資源管理の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、アワビ種苗の放流個数を増大して放流事業を継続する。</li><li>・木岐漁協と漁業者は、密漁監視の取組を引き続き実施するとともに、現行の徳島県漁業調整規則を遵守して操業する。</li></ul> <p><b>1-3 イセエビ資源管理の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協と磯建網漁業者は、日和佐町漁協との連携の下、共有漁場で従来から実施してきたイセエビ資源管理の取組を継続、徹底するとともに、木岐漁協が免許を受ける共同漁業権漁場全域に拡充して実施する。</li></ul> <p><b>1-4 漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会の定</b></p>
--------------	---

### 期開催

- ・木岐漁協とすべての漁業者は、県・町の協力（講師の選定・紹介、派遣等）の下、漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会を年1回定期的に開催する。

## 2. 合理的な共同出荷体制の構築と高品質な水産物の供給

### 2-1 周辺漁協との連携による販売事業の再構築

- ・木岐漁協は、イセエビ、アワビ類の合理的な共同出荷を目指して荷物のロットをまとめるため、当面は、日和佐町漁協及び阿部漁協と荷物の積合せ出荷の実現を目指し、具体的な方法（集荷方法、集荷場所・時間、魚種ごとの取扱い方法、その他必要な事項）を検討する。
- ・木岐漁協は、海部郡で共同出荷を主体とした販売事業を実施している漁協（牟岐町漁協、牟岐東漁協、木岐漁協、日和佐町漁協、阿部漁協、伊座利漁協）による合同の共同出荷体制の構築を目指し、県・町の協力の下、関係各漁協の協議の場「共同出荷体制検討会（仮称）」を設置する。

### 2-2 新たな活魚出荷方法の導入

- ・木岐漁協は、生産量の減少や出荷機会の制限などの課題を解決すべく、小ロットでの効率的な活魚出荷の新たな技術である「魚活ボックス（日建リース工業㈱、下記写真参照）」の活用を検討し、イセエビ・アワビ等の活魚出荷による合理化、付加価値化を図る。なお、魚活ボックスは、簡易的な活魚畜養も可能であるため、出荷調整を行うことも検討する。



(写真) 魚活ボックスによる東京都離島域からの活魚出荷試験の状況

出典：農林水産省 HP より引用

	<p><b>2-3 イセエビの需要拡大・高付加価値化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協は、漁獲が安定しているイセエビの需要拡大を目指し、町・「とくしま海部水産物品質確立協議会」との連携の下、イセエビの調理方法や漁獲方法等の情報について、SNS や無料動画配信（YouTube）等を用いて発信することを検討する（現在、配信されている動画に加え、より詳しい情報で、かつ、魅力的な食材であることをアピールする内容の動画配信を検討）。</li> </ul> <p><b>2-4 高品質の水産物の供給</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協の漁業者は、「とくしま海部水産物品質確立協議会」が実施するアオリイカのブランド化（ハンマー締め等による高品質化）に継続して参加する。</li> <li>・木岐漁協の漁業者は、磯建網漁業者やえ縄漁業者は、イセエビやノドグロ（アカムツ）についても、上記協議会による「海部の魚」ブランドの取組に継続して参加する。</li> </ul> <p><b>3. 漁業後継者・担い手確保に資する取り組み</b></p> <p><b>3-1 地域内外からの新規漁業着業の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協は、「とくしま漁業アカデミー」との連携の下、地域内外を問わず、新規漁業着業者を積極的に受け入れるための体制（指導漁業者の確保や漁船・漁業資材の調達・斡旋等）づくりを推進し、随時受け入れる。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>4. 漁業経費の削減に資する取り組み</b></p> <p><b>4-1 減速航行と船底・プロペラの徹底洗浄による省燃油対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐地域のすべての漁業者は、漁場までの減速航行を継続して行うとともに、船底・プロペラ等の洗浄作業を最低年1回実施するなど、省燃油活動を徹底し、コストの削減を図る。</li> </ul> <p><b>4-2 漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油高騰時の漁業経費の増大に備える。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>(国)漁業経営セーフティネット、(国)水産多面的機能発揮対策事業、(国)資源管理・漁業経営安定対策事業、(国)産地水産業強化支援事業、(国)漁業就業者確保・育成対策事業</p>



2年目（令和6年度）所得向上（基準年比）8.5%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>1. 地先磯根資源の増大と資源管理の徹底</b></p> <p><b>1-1 磯根資源を育む漁場環境の保全の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協とすべての漁業者は、県・町との連携のもとで、これまで実施してきた有害生物（ウニ類）駆除等の漁場環境保全の取組みを継続する。</li></ul> <p><b>1-2 アワビ種苗放流の拡大と資源管理の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、アワビ種苗の放流個数を増大して放流事業を継続する。</li><li>・木岐漁協と漁業者は、密漁監視の取組を引き続き実施するとともに、現行の徳島県漁業調整規則を遵守して操業する。</li></ul> <p><b>1-3 イセエビ資源管理の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協と磯建網漁業者は、日和佐町漁協との連携の下、共有漁場で従来から実施してきたイセエビ資源管理の取組を継続、徹底するとともに、木岐漁協が免許を受ける共同漁業権漁場全域に拡充して実施する。</li></ul> <p><b>1-4 漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会の定期開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協とすべての漁業者は、県・町の協力（講師の選定・紹介、派遣等）の下、漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会を年1回定期的に開催する。</li></ul> <p><b>2. 合理的な共同出荷体制の構築と高品質な水産物の供給</b></p> <p><b>2-1 周辺漁協との連携による販売事業の再構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協は、日和佐町漁協及び阿部漁協との共同出荷体制の実現を目指し、具体的な方法（集荷方法、集荷場所・時間、魚種ごとの取扱い方法、その他必要な事項）の検討結果を取りまとめて、共同出荷試験の実施計画を策定する。</li><li>・木岐漁協は、県・町の協力の下、海部郡で共同出荷を主体とした販売事業を実施している漁協（牟岐町漁協、牟岐東漁協、木岐漁協、日和佐町漁協、阿部漁協、伊座利漁協）で設置した「共同出荷体制検討会（仮称）」において、共同出荷体制の構築に向けた具体的な方策（集荷方法、集荷場所・時間、魚種ごとの取扱い方法、その他必要な事項）の検討を開始する。</li></ul> <p><b>2-2 新たな活魚出荷方法の導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協は、「魚活ボックス（日建リース工業㈱）」の活用に向けた検</li></ul>
---------------------	---

	<p>討結果に基づき、簡易畜養による出荷調整も含めて活魚出荷試験を開始する。試験結果は、共同出荷体制の構築に向けた検討の基礎資料として活用する。</p> <p><b>2-3 イセエビの需要拡大・高付加価値化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協は、漁獲が安定しているイセエビの需要拡大を目指し、町・「とくしま海部水産物品質確立協議会」との連携の下、イセエビの調理方法や漁獲方法等の情報について、SNS や無料動画配信（YouTube）等を用いて発信することを検討する（現在、配信されている動画に加え、より詳しい情報で、かつ、魅力的な食材であることをアピールする内容の動画配信を検討）。</li> </ul> <p><b>2-4 高品質の水産物の供給</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協の漁業者は、「とくしま海部水産物品質確立協議会」が実施するアオリイカのブランド化（ハンマー締め等による高品質化）に継続して参加する。</li> <li>・木岐漁協の漁業者は、磯建網漁業者やはえ縄漁業者は、イセエビやノドグロ（アカムツ）についても、上記協議会による「海部の魚」ブランドの取組に継続して参加する。</li> </ul> <p><b>3. 漁業後継者・担い手確保に資する取り組み</b></p> <p><b>3-1 地域内外からの新規漁業着業の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協は、「とくしま漁業アカデミー」との連携の下、地域内外を問わず、新規漁業着業者を積極的に受け入れるための体制（指導漁業者の確保や漁船・漁業資材の調達・斡旋等）づくりを推進し、随時受け入れる。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>4. 漁業経費の削減に資する取り組み</b></p> <p><b>4-1 減速航行と船底・プロペラの徹底洗浄による省燃油対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐地域のすべての漁業者は、漁場までの減速航行を継続して行うとともに、船底・プロペラ等の洗浄作業を最低年1回実施するなど、省燃油活動を徹底し、コストの削減を図る。</li> </ul> <p><b>4-2 漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油高騰時の漁業経費の増大に備える。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>(国)漁業経営セーフティネット、(国)水産多面的機能発揮対策事業、(国)資源管理・漁業経営安定対策事業、(国)産地水産業強化支援事業、(国)漁業就業者確保・育成対策事業</p>

3年目（令和7年度）所得向上（基準年比）11.3%

漁業収入向上のための取組	<p><b>1. 地先磯根資源の増大と資源管理の徹底</b></p> <p><b>1-1 磯根資源を育む漁場環境の保全の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協とすべての漁業者は、県・町との連携のもとで、これまで実施してきた有害生物（ウニ類）駆除等の漁場環境保全の取組みを継続する。</li></ul> <p><b>1-2 アワビ種苗放流の拡大と資源管理の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、アワビ種苗の放流個数を増大して放流事業を継続する。</li><li>・木岐漁協と漁業者は、密漁監視の取組を引き続き実施するとともに、現行の徳島県漁業調整規則を遵守して操業する。</li></ul> <p><b>1-3 イセエビ資源管理の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協と磯建網漁業者は、日和佐町漁協との連携の下、共有漁場で従来から実施してきたイセエビ資源管理の取組を継続、徹底するとともに、木岐漁協が免許を受ける共同漁業権漁場全域に拡充して実施する。</li></ul> <p><b>1-4 漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会の定期開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協とすべての漁業者は、県・町の協力（講師の選定・紹介、派遣等）の下、漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会を年1回定期的に開催する。</li></ul> <p><b>2. 合理的な共同出荷体制の構築と高品質な水産物の供給</b></p> <p><b>2-1 周辺漁協との連携による販売事業の再構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協は、日和佐町漁協及び阿部漁協との共同出荷体制の実現を目指し、前年に取りまとめた共同出荷試験実施計画に基づき、共同出荷試験を実施する。試験結果については、海部郡での共同出荷体制の構築に向けた検討の基礎資料として活用する。</li><li>・県・町の協力の下、海部郡で共同出荷を主体とした販売事業を実施している漁協（牟岐町漁協、牟岐東漁協、木岐漁協、日和佐町漁協、阿部漁協、伊座利漁協）で設置した「共同出荷体制検討会（仮称）」は、これまでの検討結果を取りまとめ、上記関係6漁協での共同出荷試験の実施計画を策定する。</li></ul> <p><b>2-2 新たな活魚出荷方法の導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協は、実装に向けて「魚活ボックス（日建リース工業㈱）」を活用した活魚出荷試験を継続して実施する。試験結果については、共同</li></ul>
--------------	--

	<p>出荷体制の構築に向けた検討の基礎資料として活用する。</p> <p><b>2-3 イセエビの需要拡大・高付加価値化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協は、漁獲が安定しているイセエビの需要拡大を目指し、町・「とくしま海部水産物品質確立協議会」との連携の下、イセエビの調理方法や漁獲方法等の情報について、SNS や無料動画配信（YouTube）等を用いて発信することを検討する（現在、配信されている動画に加え、より詳しい情報で、かつ、魅力的な食材であることをアピールする内容の動画配信を検討）。</li> </ul> <p><b>2-4 高品質の水産物の供給</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協の漁業者は、「とくしま海部水産物品質確立協議会」が実施するアオリイカのブランド化（ハンマー締め等による高品質化）に継続して参加する。</li> <li>・木岐漁協の漁業者は、磯建網漁業者やはえ縄漁業者は、イセエビやノドグロ（アカムツ）についても、上記協議会による「海部の魚」ブランドの取組に継続して参加する。</li> </ul> <p><b>3. 漁業後継者・担い手確保に資する取り組み</b></p> <p><b>3-1 地域内外からの新規漁業着業の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協は、「とくしま漁業アカデミー」との連携の下、地域内外を問わず、新規漁業着業者を積極的に受け入れるための体制（指導漁業者の確保や漁船・漁業資材の調達・斡旋等）づくりを推進し、随時受け入れる。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>4. 漁業経費の削減に資する取り組み</b></p> <p><b>4-1 減速航行と船底・プロペラの徹底洗浄による省燃油対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐地域のすべての漁業者は、漁場までの減速航行を継続して行うとともに、船底・プロペラ等の洗浄作業を最低年1回実施するなど、省燃油活動を徹底し、コストの削減を図る。</li> </ul> <p><b>4-2 漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油高騰時の漁業経費の増大に備える。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>(国)漁業経営セーフティネット、(国)水産多面的機能発揮対策事業、(国)資源管理・漁業経営安定対策事業、(国)産地水産業強化支援事業、(国)漁業就業者確保・育成対策事業</p>

4年目（令和8年度）所得向上（基準年比）14.2%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>1. 地先磯根資源の増大と資源管理の徹底</b></p> <p><b>1-1 磯根資源を育む漁場環境の保全の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協とすべての漁業者は、県・町との連携のもとで、これまで実施してきた有害生物（ウニ類）駆除等の漁場環境保全の取組みを継続する。</li></ul> <p><b>1-2 アワビ種苗放流の拡大と資源管理の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、アワビ種苗の放流個数を増大して放流事業を継続する。</li><li>・木岐漁協と漁業者は、密漁監視の取組を引き続き実施するとともに、現行の徳島県漁業調整規則を遵守して操業する。</li></ul> <p><b>1-3 イセエビ資源管理の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協と磯建網漁業者は、日和佐町漁協との連携の下、共有漁場で従来から実施してきたイセエビ資源管理の取組を継続、徹底するとともに、木岐漁協が免許を受ける共同漁業権漁場全域に拡充して実施する。</li></ul> <p><b>1-4 漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会の定期開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協とすべての漁業者は、県・町の協力（講師の選定・紹介、派遣等）の下、漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会を年1回定期的に開催する。</li></ul> <p><b>2. 合理的な共同出荷体制の構築と高品質な水産物の供給</b></p> <p><b>2-1 周辺漁協との連携による販売事業の再構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協は、日和佐町漁協及び阿部漁協との共同出荷試験を継続して実施するとともに、前年度に策定した関係6漁協での共同出荷試験実施計画に基づき、共同出荷試験を開始する。試験結果については、「共同出荷体制検討会（仮称）」で分析・検討し、共同出荷体制構築に向けた基礎資料として活用する。</li></ul> <p><b>2-2 新たな活魚出荷方法の導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協は、「魚活ボックス（日建リース工業㈱）」を活用した活魚出荷試験の結果に基づき、日和佐町漁協及び阿部漁協との共同出荷での実装を推進するとともに、関係7漁協での共同出荷での導入を検討する。</li></ul> <p><b>2-3 イセエビの需要拡大・高付加価値化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協は、漁獲が安定しているイセエビの需要拡大を目指し、町・</li></ul>
---------------------	--

	<p>「とくしま海部水産物品質確立協議会」との連携の下、イセエビの調理方法や漁獲方法等の情報について、SNS や無料動画配信 (YouTube) 等を用いて発信することを検討する (現在、配信されている動画に加え、より詳しい情報で、かつ、魅力的な食材であることをアピールする内容の動画配信を検討)。</p> <p><b>2-4 高品質の水産物の供給</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協の漁業者は、「とくしま海部水産物品質確立協議会」が実施するアオリイカのブランド化 (ハンマー締め等による高品質化) に継続して参加する。</li> <li>・木岐漁協の漁業者は、磯建網漁業者やえ縄漁業者は、イセエビやノドグロ (アカムツ) についても、上記協議会による「海部の魚」ブランドの取組に継続して参加する。</li> </ul> <p><b>3. 漁業後継者・担い手確保に資する取り組み</b></p> <p><b>3-1 地域内外からの新規漁業着業の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協は、「とくしま漁業アカデミー」との連携の下、地域内外を問わず、新規漁業着業者を積極的に受け入れるための体制 (指導漁業者の確保や漁船・漁業資材の調達・斡旋等) づくりを推進し、随時受け入れる。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>4. 漁業経費の削減に資する取り組み</b></p> <p><b>4-1 減速航行と船底・プロペラの徹底洗浄による省燃油対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐地域のすべての漁業者は、漁場までの減速航行を継続して行うとともに、船底・プロペラ等の洗浄作業を最低年1回実施するなど、省燃油活動を徹底し、コストの削減を図る。</li> </ul> <p><b>4-2 漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油高騰時の漁業経費の増大に備える。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>(国)漁業経営セーフティネット、(国)水産多面的機能発揮対策事業、(国)資源管理・漁業経営安定対策事業、(国)産地水産業強化支援事業、(国)漁業就業者確保・育成対策事業</p>

5年目（令和9年度）所得向上（基準年比）17.1%

漁業収入向上のための取組	<p><b>1. 地先磯根資源の増大と資源管理の徹底</b></p> <p><b>1-1 磯根資源を育む漁場環境の保全の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協とすべての漁業者は、県・町との連携のもとで、これまで実施してきた有害生物（ウニ類）駆除等の漁場環境保全の取組みを継続する。</li></ul> <p><b>1-2 アワビ種苗放流の拡大と資源管理の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、アワビ種苗の放流個数を増大して放流事業を継続する。</li><li>・木岐漁協と漁業者は、密漁監視の取組を引き続き実施するとともに、現行の徳島県漁業調整規則を遵守して操業する。</li></ul> <p><b>1-3 イセエビ資源管理の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協と磯建網漁業者は、日和佐町漁協との連携の下、共有漁場で従来から実施してきたイセエビ資源管理の取組を継続、徹底するとともに、木岐漁協が免許を受ける共同漁業権漁場全域に拡充して実施する。</li></ul> <p><b>1-4 漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会の定期開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協とすべての漁業者は、県・町の協力（講師の選定・紹介、派遣等）の下、漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会を年1回定期的に開催する。</li></ul> <p><b>2. 合理的な共同出荷体制の構築と高品質な水産物の供給</b></p> <p><b>2-1 周辺漁協との連携による販売事業の再構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協は、日和佐町漁協及び阿部漁協との共同出荷試験に基づいて事業ベースでの共同出荷に移行するとともに、前年度に開始した関係6漁協での共同出荷試験を継続して実施する。試験結果については、「共同出荷体制検討会（仮称）」で分析・検討し、共同出荷体制構築に向けた基礎資料として活用する。</li></ul> <p><b>2-2 新たな活魚出荷方法の導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協は、「魚活ボックス（日建リース工業㈱）」を活用した活魚出荷試験の結果に基づき、日和佐町漁協及び阿部漁協との共同出荷での事業ベースでの利用に移行するとともに、関係7漁協での共同出荷での導入を推進する。</li></ul> <p><b>2-3 イセエビの需要拡大・高付加価値化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・木岐漁協は、漁獲が安定しているイセエビの需要拡大を目指し、町・</li></ul>
--------------	--

	<p>「とくしま海部水産物品質確立協議会」との連携の下、イセエビの調理方法や漁獲方法等の情報について、SNS や無料動画配信 (YouTube) 等を用いて発信することを検討する (現在、配信されている動画に加え、より詳しい情報で、かつ、魅力的な食材であることをアピールする内容の動画配信を検討)。</p> <p><b>2-4 高品質の水産物の供給</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協の漁業者は、「とくしま海部水産物品質確立協議会」が実施するアオリイカのブランド化 (ハンマー締め等による高品質化) に継続して参加する。</li> <li>・木岐漁協の漁業者は、磯建網漁業者やえ縄漁業者は、イセエビやノドグロ (アカムツ) についても、上記協議会による「海部の魚」ブランドの取組に継続して参加する。</li> </ul> <p><b>3. 漁業後継者・担い手確保に資する取り組み</b></p> <p><b>3-1 地域内外からの新規漁業着業の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協は、「とくしま漁業アカデミー」との連携の下、地域内外を問わず、新規漁業着業者を積極的に受け入れるための体制 (指導漁業者の確保や漁船・漁業資材の調達・斡旋等) づくりを推進し、随時受け入れる。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>4. 漁業経費の削減に資する取り組み</b></p> <p><b>4-1 減速航行と船底・プロペラの徹底洗浄による省燃油対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐地域のすべての漁業者は、漁場までの減速航行を継続して行うとともに、船底・プロペラ等の洗浄作業を最低年1回実施するなど、省燃油活動を徹底し、コストの削減を図る。</li> </ul> <p><b>4-2 漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木岐漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油高騰時の漁業経費の増大に備える。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>(国)漁業経営セーフティネット、(国)水産多面的機能発揮対策事業、(国)資源管理・漁業経営安定対策事業、(国)産地水産業強化支援事業、(国)漁業就業者確保・育成対策事業</p>



(5) 関係機関との連携

- ①県と町、漁業協同組合等の連携のもと、当プランにおける取組と類似した共同出荷や経済事業の統合事例、漁獲物の付加価値向上等の先進事例について研修する機会を設ける。
- ②共同出荷の積合せについては、日和佐町漁協との協議と緊密な連携の下で実施する。
- ③海部郡全体での共同出荷体制の構築に向け、海部郡広域水産業再生委員会との緊密な連携の下で共同出荷体制の検討と出荷試験の実践を行う。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	令和3年度： 漁業所得 円/人
	目標年	令和9年度： 漁業所得 円/人

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

貝類（アワビ等）漁獲量	基準年	令和3年度： 2,833 kg
	目標年	令和9年度： 2,904 kg
イセエビ漁獲量	基準年	令和3年度： 3,967 kg
	目標年	令和9年度： 4,066 kg

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

- ・所得目標の算定にあたって、想定した効果として、上記2種の漁獲量の増大を設定した。詳細は所得目標計算総括表を参照されたい。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
資源管理・漁業経営 安定対策事業	資源管理の実施、漁業経営の安定化
産地水産業強化支援 事業	鮮度保持施設等の整備およびブランド化の提唱
水産多面的機能発揮 対策事業	漁場環境保全活動の実施
漁業就業者確保・育 成対策事業	新規就業者、担い手の長期研修等の実施
漁業経営セーフティ ネット構築事業	燃油高騰対策、漁業経営の安定化
未定	付加価値向上、産地直送等の新規流通経路の開拓